

二葉各異種ノ圖ヲ畫カシムヘシ嘗ヘハ一葉ハ山水ヲ寫シ  
 一葉ハ花鳥ノ人物又ハ走獸麟介等ヲ畫クノ類ナリ○第  
 五條 古實史傳ニ由リ寫シ出ス所ノ畫ハ宜ク意ヲ用ヒ其  
 事實ニ誤謬ナキヲ要ス○第六條 本會規則第八條ニ謂フ  
 所ノ畫工ノ履歷書ハ他日職ハ畫工專務ヲ編纂スルノ料ニ  
 供スルナリトシタルヲ以テ奇モ給事ニ關シタルノ事項ハ  
 勿論其ノ履歷書ヲ詳記セシムヘシ○但第一回給事  
 共進會ノ時ニ差出シタル者ト差異キハ只ニ其以後履  
 歷ノミヲ事トシ又已ニ差出シタル者ト雖モ猶ホ未ダ畫サ  
 ル所アレハ更ニ之レヲ細記セシムヘシ○第七條 規則  
 第二十六條ニ揭ケタル流派ノ分別ハ唯其名稱ノ大畧ヲ舉  
 示スルノミ故ニ出品者ハ隨意ニ自己ノ畫風ニ因縁アルカ  
 又ハ類似ノ區内ニ出陳スヘシ又古今諸家ノ長所ヲ集メテ  
 一ツノ風ヲ成シ新ニ模範ヲ出シ或ハ別ニ見解ヲ開キテ者  
 ハ第七區ニ出陳スルモノトシ又第一ヨリ第五ヨリ至ル區内  
 ニ因縁ナク全ク殊異ナル畫體ヲ爲ス者ハ之レヲ第六區ニ  
 出陳セシムル者ト爲ス宜ク出品者チシテ畫區ノ分別ニ注  
 意セシムヘシ○第八條 本邦ノ古畫ハ固ヨリ繪ナシ支那  
 ノ古畫モ又之レヲ本會場内(參考古畫室)ニ陳列シ以テ畫  
 學ノ進歩ヲ示シ此道ノ進歩ヲ實クシテ欲ス宜ク之ヲ所藏  
 スル社寺及ヒ其他ノ諸家ヲ勸誘シテ出品セシムルヲ要ス  
 ○第九條 古畫ノ出品目錄ハ編纂ノ都合アルニ付十七年  
 三月一日迄ニ事務所ニ送致セシムヘシ其現品ハ各出品人  
 ノ便宜ニ從ヒ五月十日マテ同所ニ送達セシムヘシ○第  
 十條 出品新畫ノ審査ハ規則第二十五條ニ從ヒ開場ノ當  
 日ヨリ着手ス故ニ其出品ハ延着ナキ様注意アルヘシ○第  
 十一條 出品者及ヒ荷モ給事ニ志アル者チシテ廣ク出陳  
 ノ新畫及ヒ別室ノ古畫ヲ通觀シ以テ畫學ヲ研尋スルノ感  
 思憤情ヲ興起セシメント欲ス宜ク此旨ヲ了レカメテ誘導  
 來觀セシムルヲ要ス

○警視廳第五十一號 巡查本部 警察署  
 路上ノ汚水ヲ洒注ス可ラサルハ街路取締規則中明文モ有  
 之不相成管ノ處退々各署ノ候ニ際シ候テ以テ往々散布候  
 者有之候ノ趣ニ付右取締方一層注意スヘシ此旨相達候事  
 明治十六年七月三日 警視廳總務山實紀代理  
 警視廳副總務山實紀代理

○七月四日 司法少輔兼元老院議官四位勳三等厚良 兼兼  
 免本官專任元老院議官 海軍省六等出仕 村上敬次郎  
 任海軍少書記官 海軍省六等出仕 前田 享  
 任海軍少書記官 海軍省六等出仕 古屋 儀  
 補海軍省六等出仕 海軍少書記官正七位 沖 一平  
 補海軍省六等出仕 海軍少書記官正七位 西田 明則  
 補海軍省六等出仕 從七位 隅山 直清  
 從七位 從七位 山本 徳元

時事新報  
 清佛ノ談判如何  
 佛公使トリシウ氏ガ安南事件ニ關スル本國政府ノ使命  
 ナリトシテ大ニ支那政府ト談判スル所アラントシ日本ト出立  
 シタルハ五月下旬ニ在リ夫レヨリ支那政府ノ全權大臣  
 李鴻章ニ上海ニ會シタルハ六月六日ニシテ爾來此清佛南  
 大臣ノ間ニ往來談判アルコト既ニ一月月來和議ノ方  
 向ニ於テ其結局ハ總セザルガ如ク其談判ノ模様  
 ニ付テハ確實ノ報知ヲ得ルニ由ラズガ如ク唯上海等

ノ通信ノマ、隨聞隨記シテ為来ノ參觀ニ供シ其確實詳  
 細ナルモノハ總テコレヲ後報ニ讓リテ日夜其來案ヲ俟ツ  
 ノミナリ

元來清佛ノ談判ハ秘密ニ屬スルヲ以テコレニ關スル種々  
 ノ風説ハ固ヨリ遠カコ信ヲ推シベカラズ又其孰レガ實ニ  
 屬シ孰レガ虚ニ屬スルヤ判斷スベカラズト雖モ今日迄  
 ノ報道中ニ就テハ左ノ一項ノ如キ最モ事實ニ近カルベシ  
 ト察セラルハナリ

佛國トリシウ氏曰ク佛國ハ安南ヲ認メテ獨立國ト爲ス  
 ガユニココレニ對シテ獨立國ノ取扱ヲ爲シ又爲キント  
 スルナリ然レハ安南ニシテ果シテ支那ノ屬邦タランカ  
 佛國ハ他人ノ屬邦ヲ指シテ強ヒテコレヲ獨立國ナリト  
 偽リ無道ノ所爲ヲ恣ニスルノ意ニアラザルヲ以テ其證  
 據ノ十分ナルモノアラントハ安南爲清國所屬之邦ト云  
 フニ就テ聊カモ異存ナシ

右ノ如ク安南爲清國所屬之邦ト定マリタル以上ハ安南  
 國內一切ノ政務ハ支那政府自カラ其責ニ任セザルベカ  
 ラズ就テハ今同安南事件ニ付佛國人ハ安南人ノタメニ  
 幾多ノ人命ヲ奪ハレ幾多ノ財產ヲ毀損掠奪セフレ軍艦  
 ナ送り兵隊ヲ出シ鐵城戰争ノタメニ莫大ノ金額ヲ費シ  
 タルヲ以テ支那政府ハ相當ノ金額ヲ佛國ニ與ヘテ此費  
 用ヲ償還スベシ

若シ支那政府ニシテ安南ノ事ハ一モ其責ニ任スルノ義  
 務ナシト云ハニハ佛國ハ止メテ得ベ安南ヲ獨立國ト  
 認メコレト直接ノ談判ヲ以テ相當ノ處分ヲ爲シ支那政  
 府ノ隊ヲ容ル、コトヲ許サマルベシ

清國李鴻章氏曰ク安南爲中國所屬之邦故ニ飽クマデモ  
 コレヲ保護シ他人チコレヲ蹂躪セシメザルノ義務  
 アリト雖モ佛國ガ安南トノ關係ノタメニ其人合財產ヲ  
 失ヒ無賴ノ鐵賊ト戰闘スルニ軍費ヲ要シタリトテ中國  
 政府ノ預リ知ル所ニアラズ安南ガ中國ノ屬邦タルガタ  
 メニ故ラニ佛國チシテ損失ヲ蒙ラシメタルノ事實ナキ  
 以上ハ固ヨリ其損失ヲ償フノ責ナシ

以上清佛兩國ノ全權使臣ガ相執テ相争フノ論点ナリトノ  
 風説ナリ果シテ此風説ノ如クハ清佛兩國カ他ニ對シテ一  
 歩ヲ讓ルマデハ到底此談判ノ結局スベキヤウナシ今支那  
 政府ノシテ安南爲中國所屬之邦其外交ノ事ハ中國一切コ  
 レガ責任ニ任スベシト云テ佛國ニ向テ數千萬兩ノ償金ヲ拂  
 フトセシカ安南ノ高麗ハ一朝忽テ無事ニ歸シ今ヨリ數年  
 ノ間ハ支那ノ南境ニ密偵漢々ノ憂ナカルベシ然レハ支那  
 政府ノ地位ニ立テ自カラ慮レバ一昨々年伊梨事件ニ付露  
 國ト其難ノ折モ露國ノ海軍支那海軍ヲ衝突シ勢甚ダ危急ナ  
 ルニ至テ償金ヲ出シ捕下ノ罪ニ平和ヲ買ヒタリ今年又佛  
 國ト邊境アルニ至テ同レク償金ヲ出シテ和議ヲナリトア

リテ天下ノ人ハ愈益中國ヲ輕侮シ各針小ノ事ヲ持テ大  
 ノ口實ニ作爲シ西ヨリ東ヨリ北ヨリ南ヨリ交々來テ償金  
 ナ要求シ厭クコトヲ知ラザルニ至ルヤ明カナリ償金ノ過  
 決シテ再三スベカラザルナリ然ラハ安南ヲ放棄シテ佛國  
 ノ爲ス所ニ任センカ佛國ハ忽チコレヲ征服シテ紅河一帯  
 ナ併吞ノ機漸ク其鋒チ中國ノ南境ニ向ケ第一機ヲ待テ雲  
 貴湖廣ノ地ヲ侵チテトスルヤ明カナリ加テ安南中國ノ屬  
 邦ニアラズト自カラ明言センコトハ朝鮮モ屬邦ニアラズ琉  
 球モ屬邦ニアラズ一切他人ノ爲ス所ニ任シテ中國ハ口ヲ  
 禁セザルヲ得ス安南ハ放棄スベカラザルナリ然ラバ硝煙  
 彈丸ヲ以テ戰場ニ曲直ヲ争ハントスルカ佛國ノ強大ハ固  
 ヨリ中國ノ敵ニアラズ勝算ナキ戰爭ノ容易ニ企ツベカラ  
 ザルナリ斯ノ如ク左思右考到底關聖ヲ容レザルノ意ニ迫  
 レマデハ決斷スルコト能ハザルベシ或ハ米國ニ兵器ヲ注文  
 シタリト云ヒ或ハ新造ノ兵船ヲ製造シ着手シタリト云ヒ  
 投効ノ將士ニ命シテ各其鄉貫ニ歸リ業ニ安セシムルコト  
 ヒ上海ヨリ北京政府ニ書テ上リテ命ナシト云フガ如キ  
 皆和戰ノ間ニ依稀シテ未ク決セザルノ狀トシテ見ルベキ  
 モノ、如シ又佛國政府ニ於テモ急ニ大軍ヲ安南ニ派遣シ  
 テ直チコレヲ侵略スル程ノ所置モナク僅カニ所在數千  
 ノ兵チ東京地方ニ送り敵ノ攻撃ヲ防キ城ヲ守ルニ止マル  
 モノ、如ク決シテ活潑ナルモノト云フベカラズ面シテト  
 リクウ氏ガ李氏ト談判モ既ニ一月ノ久シキヤニ且レハ  
 未ク結局ニ至ラズ悠々辨難ニ時日ヲ消費スルヲ見レバ佛  
 國モ亦和ヲ欲スルノ意ガト云フノ說モアレハ亦一說ニハ  
 佛國ハ償金ヲ得テ満足シ安南併吞ノ最好機會ヲ逸セシメ  
 テ悔ヒザル者ニアラズ然レハ今ヤ安南ノ儀ニ際シ安南ノ  
 意地ニ戰ヲ開クノ不便ヲ慮リ秋冷ヲ待テ大ニ爲ス所アラ  
 ント欲シテ故ラニ因循不決ノ態ヲ取テ事ヲ急ニセザルナ  
 リト云ヘリ此等ノ諸説固ヨリ其當否ヲ知ルベカラズト雖  
 モ畢竟ニルニ清佛ノ高麗ハ到底急進ニ其結局ヲ見ルコト難  
 カルベキカ

雜報  
 ○軍艦辛岩倉右大臣第 聖上ハ昨日午前十分頃  
 俄ニ岩倉右大臣ノ病症御懸問として御皇居ヲ御出門在リ  
 セ給ヒ御陪乘ハ米田侍從長供奉以テ大寺宮内卿川崎少  
 輔其他侍從等御乘りて麹町區成田町ノ御大御所ニ行幸遊  
 心され長クも病狀近ク瘳ませ給ひ最ニ御醫官ノ勸諭ヲ賜  
 りて正午十二時頃還幸遊心されたり御呼圖察右大臣一  
 日も早く醫治ノ効ありて 皇親ト愛シ奉り度ハ事によそ  
 ○參内謁見 總理閣議大臣フクナアアア氏及同國  
 陸軍中將フクナヘルムス氏ハ以同國使臣トシテ昨日午  
 前十時飯後居ヘ參内せしり、聖上ハ御式部卿片岡  
 先導ニ從テ便殿ニ謁見、謁見ニ右三氏ハ片岡卿ヲ仰せられ